



令和5年7月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

ヒジキ増殖への取り組み

毎年春になると伊豆の各地でヒジキの採取が始まります。しかし、数年前からヒジキの着生が悪い状態が続いており、今年は特に悪く、採取を禁止した地区もありました。

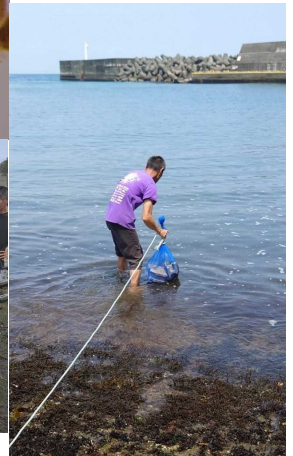
採取を禁止した下田市白浜の漁業管理運営委員会ではヒジキ生育不良を憂い、増殖対策を試みました。僅かに残ったヒジキを採取し、当场で陸上植物の種にあたる“幼胚”を集めヒジキが生育しなかった漁場に散布したり、母藻を袋に詰め種蒔きを期待する“スポアバッグ”として漁場に設置する活動が行われました。幼胚散布は須崎地区でも行われました。このような活動が功を奏し、再びヒジキ漁場が回復することを願っています。

解説：ヒジキは雌雄異株で、冬から春にかけて生長した後に、成熟します。雌の生殖器床からこぼれた幼胚は岩に付き、大きくなります。



←ヒジキの幼胚
長さ0.1~0.2mm

↑ ヒジキ幼胚の散布(幼胚を混
ぜた海水をじょうろで撒く)



↑ヒジキのスポアバッグの設置

キンメダイの親魚採捕調査を開始

キンメダイの産卵期が近づいたことから、傭船による親魚採捕調査を開始しました。

6月6日、稲取の漁船で採捕した39尾を焼津の深層水利用施設に搬入し、長期成熟試験を開始しました。また14日には南伊豆の漁船で採捕した13尾を伊豆分場に収容し、生残と成熟状況を観察しながら、種苗生産研究の準備を進めています。

今後も調査を継続しながら、成熟した親魚が確保でき次第、人工授精及びふ化仔魚飼育試験に取り組む予定です。



↑伊豆分場の水槽に収容したのキンメダイ親魚

漁業高等学園の生徒が来場

漁業高等学園は新規漁業者の育成を行っている専門校です。6月8日に学園の生徒13名が当场を見学を訪れました。

当日は、当场が設置しているイセエビのブルルス幼生を採集するコレクターを見学しました。あいにく幼生は見られませんでした。色のついた稚エビが採集されました。

その後、当场が飼育している海藻やサザエ、イセエビの実物を見ながら、伊豆の磯根資源について理解を深めました。



↑ 当场職員からところてんの材料の海藻「テングサ」の説明を受ける生徒

7月の予定 ●県漁業士会役員会(7日) ●プリ研究機関会議(18日) ●キンメダイの人工授精・仔魚飼育試験
●調査船駿河丸によるキンメダイ親魚採捕調査(24~25日) ●太平洋長期漁海況予報会議(26~27日)
●伊豆各地で中間育成したマダイを沿岸域に放流 ●研究課題要望調査(分場職員が漁協等関係団体を巡回)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当场には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。